

会場：北海道電力(株) 参加者 13名

#### 概要

ORの手法を心得ている人が、ある1つの問題に、出会った時に、はたして、虚心坦懐に問題を把握できるであろうか？ 問題を手法を考えたらうで、定式化したり、あるいは、その先のアルゴリズムまで考えて、把握してしまっているのではなからうか。

このような、観点から出発して、問題を問題として、受けとめたらうで、解法の開発を試みる、このことをエンジニアリング・アプローチとよんでいる。

内容は、

- ・OR適用の環境
- ・組合せ型問題のアルゴリズムの非連続性、個性
- ・アルゴリズム研究……「計算の複雑さ」から
- ・組合せ型問題と解法における近似化
- ・Engineering Approach

と進められた。

氏は、問題の解法の構造を把握し、トップダウンにアプローチしてゆく方法を試みている。

この8月26日から10月12日まで欧米を視察された時のテーマの1つが、この方法であったということで、「各国の研究者に、いかに暖かく迎えられ、また冷たくあしらわれたか」を、独得のユーモアと各研究者のプロフィールもまじえながら話していただき、楽しく聞くことができました。

#### 4. 今後の計画

具体化されているものとして、12月中旬に、「札幌の地下鉄」というテーマで、月例講演会が予定されております。

研究会は、年度内に、さらに1~2回開く計画で進めています。

## 会員近況



早稲田大学 システム研 西野 吉次

三得工学 最近何か実際的な社会工学問題に取り組みたいと思っています。たとえば環境問題です。一時期公害問題が大きく騒がれ、多大の努力が払われて、どうか大都市の空も、ずいぶんきれいになってきたように思われます。しかし問題解決という段階でもなさそうです。公害という枠から一歩進めて、環境を保全することは、経済成長ということと同じように必要であることは言うまでもないことでしょう。ところがこれらの間に相剋のおこることをしばしば耳にするところですが、21世紀に入る前にもっと事柄を明確化させておかないといけないのではないのでしょうか。こんな問題に手を染めるなんて、あまり賢いことではないらしいですが、科学技術を利得追及にだけ利用しては、いずれまた批判されるでしょう。それで社会工学とは何だろうと考えてみました。これは、利得、説得、納得の三得(に關係する)工学ではないかと思われます。利得は申すに及ばず社会福祉の向上であり、説得とは如何に相手方を説得するか

の方途、納得は相手の言い分を如何に理解するか術であると思うのです。いずれ真実だけが問題ということになるでしょうが、ORを進めるうえにも考えておかないといけないようですね。

関西テレビ放送 電子計算室システム部 久保 匡平

民放ラジオの開始以来、エンジニアとして急速に発達する放送技術のなかに身を置いてまいりましたが、その後電算室に移り、リプレースごとに概念の転換を迫られるこの世界の変転の激しさはいちじるしく、数年が瞬間に過ぎました。この間、番組編成や営業から放送機器の自動制御につながるトータルオンラインが完成し省力や事務の合理化、販売戦術の強化に役立つようになりました。74年頃よりコンピュータ本来の能力をフルに発揮できる分野として、経営戦略の利用をめざし、各種予測や構造分析を手がけるようになりました。IEのセンスありとかおだてられ、調子に乗って入った道は遠く遙かであり、まさに試行錯誤の連続です。不勉強で高等数学に弱い私にとっては大いなる試練といえましょう。このぐうたら分析屋も近頃は、いっばしの尤もらしいことを言うようになり、常に謙虚たるべしと自省しております。貴誌ははじめ経済誌や社会・人文科学系の本を多く読むようになり、ある程度グローバルな視野をもつことができようになったのは、この種の業務に携ったおかげかと思っております。